

閉会の挨拶

北陸信越工学教育協会 会長
信州大学 副学長
半田 志郎 氏



ただいまご紹介いただきました北陸信越工学教育協会の会長を務めさせていただいております信州大学工学部長の半田でございます。よろしくお願いいたします。

本日は長時間にわたり、平成29年度北陸信越工学教育協会年次シンポジウム並びに信州大学ものづくり振興会の技術講演会にご参加いただきまして、誠にありがとうございます。

本年度のテーマは、「工学教育を通しての特色ある産学連携等社会貢献への取り組み」ということでございます。工学といいますと、やはり科学の知見を世の中を便利にするものに昇華していくという学問でございますので、産業界とのつながりが非常に大きいということでございます。

工学教育協会ということで、我々大学人が運営しておりますので、これまで大学の方が多かったり学術分野の方が多かったりしましたが、今回は信州大学ものづくり振興会と共催させていただくことによりまして、このように産業界の多くの方に出席いただきまして、有益な議論ができたのではないかと考えているところでございます。

今回は4人の先生方にそれぞれのお立場から、「工学教育を通しての特色ある産学連携等社会貢献の取り組み」ということについてご講演をいただきました。誠にありがとうございました。

まず最初は、文部科学省高等教育局専門教育課課長補佐の辻様から基調講演といたしまして、「大学における工学系教育の有り方について」ということで、文科省や政府の動きとして、工学教育がどうあるべきかを中心にお話いただきました。我々も良く考えなくてはいけない部分がかかなりあったのではないかと思います。特に、産業界で今後予想される期待分野と、大学でやっている教育分野が違うのではないかと、日本の大学の産学連携はあまり緊密でないのではないかとというようなお話もございました。我々も少し反省するべきなのかもしれないということがございました。

そういった基調講演に対しまして、2つの大学の

先生から各大学の取り組みを紹介していただきました。これらはある意味、文科省や政府でいわれていることへの答えに相当する取り組みも少し入っていると私は思っています。

新潟大学工学部の工学力教育センターの岡先生の方から教育改革の取り組みということで、ものづくり教育、それから、文科省等から出ています特色GP、現代GP、教育GPの紹介がありました。これらがどんどんグレードアップして行って、最後には世界展開力強化GPといったところにまで、どんどんグレードアップして行っているというところが素晴らしいと思ったところでございます。特にその中でPBL、実践を通して教育をする、これは非常に素晴らしい内容で、我々も見做わなくてはいけないと思っているところでございます。

それから、3番目の当幹事校の佐藤副学部長の方から、信州大学工学部における社会人学び直し教育ということについてのお話をさせていただきました。我々といたしましては、社会人の学び直し教育ということを通して、教育することは当然ですが、要するに共同研究につなげていくという視点もでございます。そういった学生と教員のつながりから、企業と大学のつながりへということで、共同研究や社会貢献につなげていくということを述べていただきました。

それから、最後の講演は、元本田技術研究所研究室長、現在は自動車技術会・フェロー、フェローエンジニア、自動運転委員会委員の川合様から、ものづくり振興会特別講演といたしまして、「自動運転とAIの進歩と課題」ということで、皆さんが本当に興味ある話題を取り上げていただきました。自動運転の発展の歴史から、将来までも見通したご講演をいただきまして、本当にありがとうございました。

その中で、アメリカなどは大学と産業界が緊密だという話がありました。やはり最初の頃から産学連携で始まっているというところで、日本はまだそこまでいってなかったということです。大学の研究が進んでいなかったから企業が連携できなかったのか、それとも見えていなかったのかというところが

あると思います。我々工学教育協会としましては大学と企業様とが一緒になって、こういった議論をすることによって、産学連携の道を図ることが非常に大事なんじゃないかと思っております。

最後になりますが、今回ご講演をいただきました4人の先生方に感謝申し上げますとともに、多くの皆様に参加、議論していただきまして、本当にありがとうございました。今日はどうもありがとうございました。

